

カワニナ

Semisulcospira libertina

種名



分類	カワニナ科
俗称	ゴウナ(岡山)、カニラ(栃木、群馬)、ニナ(群馬、山梨、岐阜、愛知、兵庫、山口)、ホージャ(熊本)
形態的な特徴	殻は細長く先端がかけていることが多い。殻の形や色彩は環境によって変異が大きいが、一般的には若いときには淡褐色で成長に伴い、黒褐色になる。殻長は 15～30mm になる。殻の形などは変異が著しく大きく、今後研究が進めば、いくつかの種に分かれる可能性もある。
分布	北海道南部、本州、四国、九州、沖縄の各地に分布する。
繁殖行動	産仔は5～10月頃に行われる。雌雄異体の卵胎生で、年間で50～100個の仔貝を産む。ゲンジボタルのエサになることで知られている。
生息場所	流れが比較的緩やかな小川や大きな河川の淵、池沼などに生息する。一般にきれいな水質の所にすむといわれているが、むしろエサとなる植物性の有機物や着生藻類が豊かなことが重要になる。水深は1cm～1m程度が普通である。
食性	食性は環境によって異なるが、おもに泥の中の有機物や石の表面についている藻類、落ち葉などを食べる。時にはミミズ、ザリガニ、ドジョウなどの死肉を食べることもある。
生息環境への配慮事項	清澄な川にすむイメージだが、実際にはやや富栄養化している水域に生息する。むしろ、用水路や有機物の多い家庭排水が流れ込むような水路の方が数は多いようである。ホタルを川に呼び戻す運動が各地で盛んになり、ホタルのエサとなる本種を養殖する地域もある。ホタルの餌として移入する場合には、各地で遺伝的に異なっているので安易に持ち込むべきではない。また、ホタルのいなかった場所にホタルを導入する場合、在来のカワニナの生息が考えられるため、安易に他地域のものを放すことも控えるべきである。
その他	日本には本種以外にも何種類か知られており、琵琶湖では固有種も含めて16種が生息している。

引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.htmlを改変